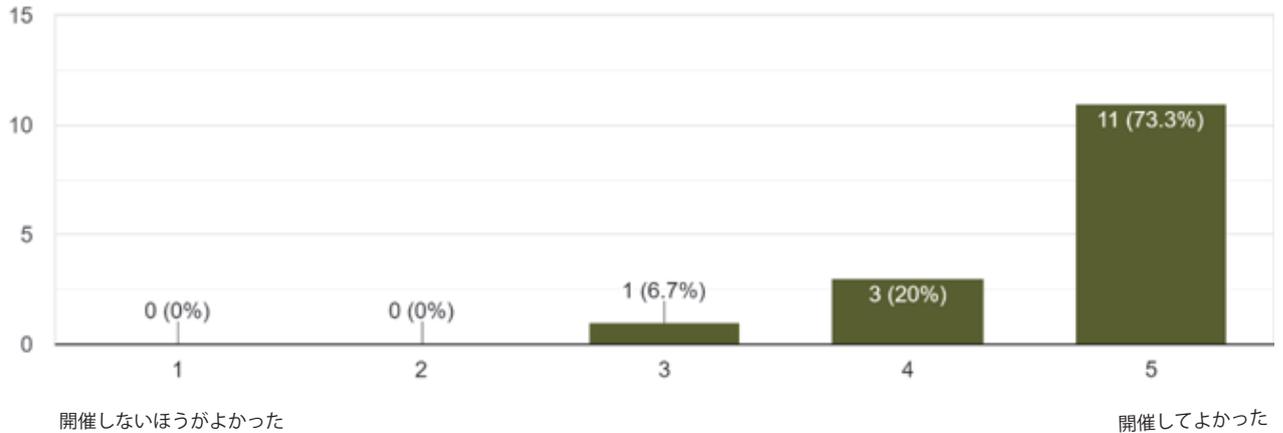


「ゆめ花マルシェ 2020」 参画アンケート 集計結果まとめ

(開催期間/令和2年10月10日(土)~11日(日) ・アンケート回答数/15名)

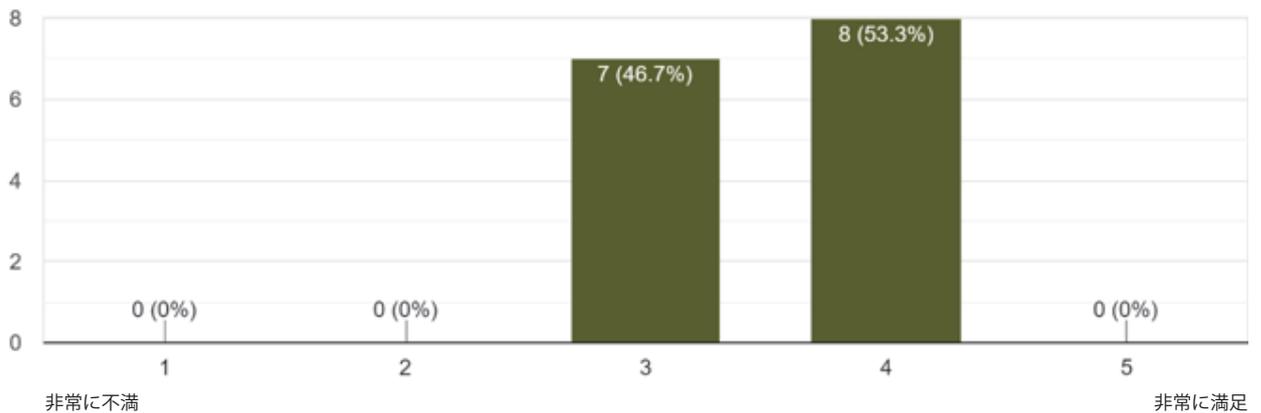
◎「ゆめ花マルシェ 2020」の10月開催時期について



【上記、選択の理由 (記述)】

- ニューノーマルの公園利用の実践者として、ノウハウを得ることができたから
- いつも「やる方」を選択するので。時期は？
- お客さん、スタッフみんなが笑顔で帰って行ってきていたし、結果 コロナ感染者も発生しなかった (?) から
- 継続は力なり
- 利用者の感謝の声が多数あった
- 周知に十分な時間がかけられなかったため
- イベントが自粛ムードの中、勇気と対策をもってできたから
- イベントのあり方を見つめ直し、創出するきっかけになった
- 公園で過ごす時期として、適した季節であると考えてるので
- 1年を通しての人の生活の流れの中で、落ち着いているいろいろなことに向き合える時期でもあると考えてるので。
- 「コロナ禍でできること、伝えるべきことをやろう」との目的は達成できたと思います。世間の空気が大きく変わってはいたが、イベント自粛が続く中で勇気をもって一步を踏み出す「好事例」であり、開催したことは大きな意義があったと思います。
- 実施することにより、さまざまな問題点や課題が顕著になった
- コロナ禍の中で、三密とほとんど無縁な屋外のイベントは、ストレス解消になり、とても大事な行事だと思う
- 参加された、子供や大人も、楽しそうに過ごしておられ、実施して正解だった
- コロナ渦の中、できる範囲の中でも公園の有効活用で人とのふれあいが戻ってきた。
- 体育の日前後は運動会やスポーツイベントが重なり、来場者が集まらないことはもとより、他行政主催イベントとの競合が理念や運営主旨とそぐわない様に感じた
- コロナの影響で多くのイベントが中止になり、県民に広く啓発する機会が失われていたため

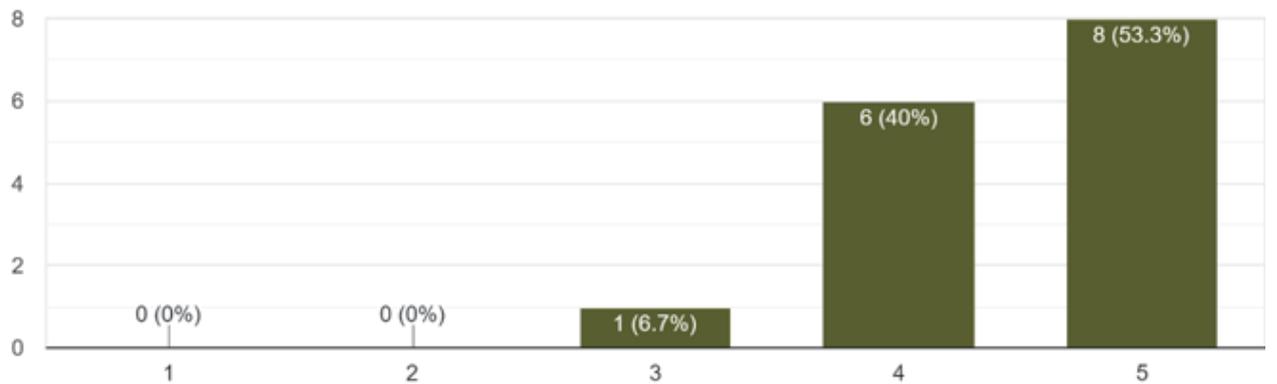
◎「ゆめ花マルシェ 2020」構成、内容についてどのくらい満足されましたか



【上記、選択の理由（記述）】

- 協議会のメンバーがコンテンツを提供するのではなく、公園という場を提供する側、使い方を提案する側、啓蒙する側になっていないという点で、1点減点しています
- 今回も全てを見れずで
- 他の会場には行けなかったのが全体的な事はわかりませんが 当施設に関しては通常営業プラスアルファのプログラムを立て コロナ対策も通常通りでしたので対応しやすかったです。(他の会場でのプログラム状況はわかりません)
- 参加者数が非常に少なかった。
- 様々なことが公園ではできることが分かった
- 日常の公園を楽しむという感じでは丁度良い人の流れのように感じましたが、1年に1度のイベントで新しい公園の日常を提案という意味ではさらなる内容の充実とわかりやすさが必要と思いました。何をやっているのかよくわからないという意見も頂いたので、考えさせられました。
- 一日しか参加できなかったのがよくわかりませんが、思ったほど来場が少なかったと思います。コロナの中、行き場所を探して、たくさん来ると思っていたのですが・・・このイベントで来られる人にもっと具体的に楽しんでもらうイベントを絞り込んで、動機づけが必要だったのかも？
- 公園のあり方や利用の仕方が、主催者サイドから来場者サイドに視点を転換してみることのヒントをくれた。
- フリマのようなデパートの公園化とは違う視点。
- 今年の状況下で、公園のあり方や活用の可能性という課題をもちながらも、準備期間が限られていた中ではあったが、いくつかのコンテンツがこの状況での開催としては、それぞれ十分な表現が実現できてたのではないかと実感している。それぞれのコンテンツの今後の活動等へもつながっていることなども含め。(参画していただいたコンテンツの様子や関係者との振り返り等より)
- コロナ禍という理由で「本当にやりたいこと」ではなく「できること」をやられたので満足はできないかと。ただ「できること」はできたので、3くらいかと考えます。
- 集客層や内容について、何かが足りないのが偏っているような気がする
- コロナ対策で、会場間が離れることはやむ負えませんが、参加者の導線と会場設営をさらにご検討いただけたら嬉しいです。
- 飲食ブース、物販が充実すると更に良かったと思います。
- とにかく行政主導スポーツ（体験型）イベントが重なる日は機会損失だと感じた
- ソーシャルディスタンスを意識したブース展開で、広大な公園を活用し、自由に活動できたため

◎ご自身の仕事との関連性や仕事に役立つ部分はありましたか



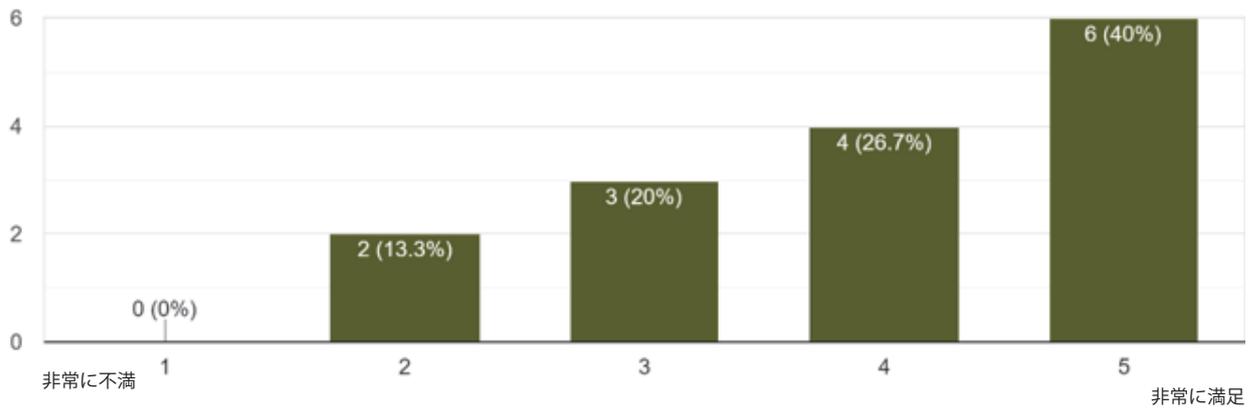
全くなかった

非常にあった

◎このイベントでは、ご自分では主にどのようなことを習得しましたか。(記述)

- 出演者のブッキング・現場統括
- 当施設活動に関して広報がまだまだ足りていないことを再確認と認知度を少し上げることが出来た。
- 習得より成果の発表
- 公園のあるべき姿を実感
- コロナ感染症対策を踏まえたイベントの開催方法、集客力向上に向けた取り組みの工夫など
- 集客数を第一に考えるのではなく、人と人との関わり合い方に視点を置くこと。また、来場者の意思で主体的に行動できるゆとりと自由度の必要性。
- 地域にある様々な人や資源などを多分に活かしていける可能性が見いだせたこと。自分の専門分野とのつながりや、地域における役割が確認できたこと。
- コロナ対策に関する知識習得とイベント開催に向けた調整や準備に関すること
- 人脈の構築とイベント開催に関する新たな見地
- たくさんの人に、喜びや癒しを提供できることのうれしさを改めて感じた。
- 自然と人との共存で非日常を体感でき、協議会のメンバーとの更なる結束力が深まったと思います。
- 広い会場での適度な過密感の演出

◎準備・搬入・搬出について



【上記、選択の理由（記述）】

- 準備は「マルシェ開催のための会議」しかできていないという点で1点減点しています。
- ステージに関しては何ら問題はありませんが、全体で見た場合は？
- わかりやすかった。
- 搬入ともにスムーズ、準備は自分のこと
- 感染症対策もできていた
- 皆様お忙しい中での調整、準備等ありがとうございました。協力体制のもとスムーズな準備と片付けができたのではないかと思います。
- 特に活躍していないのでわかりません
- 自分たちのブースにとっては、駐車場からの搬出入がしやすかった。
- 担当エリアでは、多数のコンテンツに関わる関係者に協力を得たため、各種調整等、限られら期間での対応は、本業との兼ね合いもあり、時間のマネジメント等、相当の工夫と労力が必要であったため。
- 受付関係の準備は人手不足でした。作業量を早めに会員で共有して参加者をもっと募る必要があったかと思えます。
- 一部にしわ寄せが来ているような気がした
- 重たい荷物をあらかじめ搬入できました。
- もっと協議会のメンバーの積極的な参加が望ましいです。
- ボランティアやイベントに疎い人達でも充分理解できた
- 事務局を始め、運営の方々が非常に協力的で支障を一切感じなかったため

◎ゆめ花マルシェの開催について



◎「ゆめ花マルシェ 2020」についてご意見・ご要望がございましたらご自由にご記入ください

○協議会は器を作る役割となり、集客を考えるのではなく、主体的に公園利用に関わる人を増やす方向でありたい。

○コロナ拡大対策とは言え 会場の配分を考えていただきたいです。

○範囲が広すぎると思います。年度ごとに開催場所を③～④カ所に分けて開催場所を移動するようにしたら良いと思います。こじんまりとしないとお客も来づらいのでは

○会議スケジュールを少しゆとりをもって計画してほしい

○会議でもありましたが、公園を活用した様々な持ち込み企画が集まってくるマルシェであり、毎年成長していけるマルシェとなるようにしていければと思います。

○今回あまり関われなかったので次回はまた学びながら参加させて頂きたいです。

○マルシェは複数回、小出しにして行うと公園の良さを体感できる頻度が増えると思う。ただし、フリマや骨董市は公園利用の創造の一部で出店者の営利の比重が高いため回数又は出店数を限定した方が良いと思う。公園利用者のライフスタイル創造に主体を置いたイベントやブース、スラッグラインやニュースポーツなどの公園の広さや特性を活かして楽しめるコンテンツはあり良いと思う。

○この度の開催は、山口きらら博記念公園の今後のあり方も含め、きらら活性化協議会が主催するイベントとしての『ゆめ花マルシェ 2020』の意義や可能性など、この今年での状況での挑戦的な試みも含め、今後につながる成果が感じられたと思う。公園で人が過ごすとうことのいろいろな形が見えたのではないだろうか。

○こうした成果をつないでいくためにも、今後、続けていくための方策を実質的に検討することが必要であると感じている。

○これまで、各コンテンツは、0 企画ということで、進めてきたが、イベントを開催するためには、いろいろな立場での関わり方があり、0 企画で進めてもイベントをきっかけとして事業者の見通しの中で還元していける業種もあれば、遊び場のようなフリーで楽しめる場の提供など、エリアやコンテンツの役割や特性がある。これらの役割や特性が違うコンテンツを同じように進めていかざるを得ない現状は、実質的な負担が大きく、このままの形での継続は厳しいところを感じている。公園でのイベントということで、それぞれの役割やエリアの位置づけなどを加味して全体で調整していけるような仕組みを作っていくことが、今後、このイベントを続けていく上で必要であると思う。

- イベントの事務局については、業務内容、及び、実務を考慮しても、事務局長1人では、負担が大きすぎることや今後の継続していくイベントの運営の視点からしても、イベントの事務局は複数での体制にするなど、事務局のあり方も検討することが必要であると考えます。さらに活性化協議会の事務局と『ゆめ花マルシェ』のイベントの事務局の位置づけや関係という課題でもある。
- 通常の公園とは異なり、音楽や花き、体験ブースなどに囲まれたすごく素敵な価値ある空間を「無料」で体験できたのは良かったが、これは「有料」で提供すべき非日常空間であるように感じました。
- 事務局の業務（協議会運営、広報、営業、渉外、企画、物品管理、イベント当日運営管理、苦情対応、準備片付け）を各会員で責任分担する必要があると感じました。
- 開催回数、規模、内容と継続性、収益性はリンクするものだと思います。
- 参画者それぞれの1番に自らの目的がありながら、大まかなベクトルが一緒ということで繋がっている様に見えます。このバランスを逆転させて、「イベントを実施することができれば、参画者が潤う」ようにしていくのが課題なんだろうと思います。そのためには、協議会組織の拡大もしくは他団体との連携は必要となるような気がしますし、それによる更なるコンテンツや魅力の拡大はあるかもしれませんが、組織の改編、組織内での対立のリスクについて、継続していく上で、避けて通れない道だと思います。
- 収益性を求めず、予算規模の縮小と合わせ、規模縮小に舵を切るという方針もあると思います。公園の日常をコンセプトにしたこじんまりとしたものであれば、継続していける道を探していけるような気がします。
- 「ゆめ花博」から継続する、とても知名度のある「ゆめ花」の冠をもっている組織なので、集客できるイベントとして、みる人からみれば、とても羨ましいものであるような気がします。また、今は県と一緒に活動している組織という利点（信用も含めメリットがあるような気がします）、その県が県内各地からさらに博記念公園に集客しようとしている状況、県内各地にこの実績を展開していこうとしている点をうまく活用できていない気がします。
- この組織は継続できるポテンシャルを持っているとっております。
- 今年は、コロナ対策で、食関係の出店を抑制されていましたが、落ち着きましたら、食の出店を増やしていただきたい。イベント参加の楽しみは、イベント参加と、食が半々だと思います。

以上